

広報

こころのこ

2005

12

No. 595

<http://www.town.kokonoe.oita.jp/>

九重の自然はウツクシイ

嶋田裕雄さん（九重の自然を守る会会長）の講話から

九重の自然はウツクシイ

「麗（うるわ）しい」と「美しい」には違いがあります。

麗しいとはとても整って、乱れたものがない。完全であり、きちんとして端正で、お行儀がいい状態を言い、人為的であり計算があります。たとえば、京都の名庭園などはきれいで麗しいものです。

一方、美しいは、肉親への愛から起こったもので、やがて美そのものを表すように変わったものです。ですから、愛らしい、いとおいし等の思いが美しいの底にはあります。

またそれは、計算がありませんし、感覚的なものです。たとえば、そこら辺のクヌギ林には、動物のフンや死骸が転がっているでしょう。そこにはウジがわいているかもしれません。そういったことをひっくるめて、美しいのです。

九重の自然が美しいというのはそういったことなのです。



自然を守ること

自然は長い年月をかけて練り上げられたものです。そこに住む動植物、微生物の関係も長い年月をかけて成り立ってきたものです。私たちは食物連鎖を言うときに「弱肉強食」という言葉を使いますが、自然界で「強食」は「弱肉」を滅ぼすことはありません。我々の先人も同じです。センブリという薬がありますが、先人たちは、全部とらずに、必ず来年のために残すことをしてきました。それはまた、自然に対する畏敬（いけい）の念の現れであり、謙虚な気持ちを持つていたことだと思います。その結果、美しい自然が残ったのです。美しい自然が残っているということは、お互いが生きながら、お互いを生かすつながりを作っていることで、そこにはよそものが入ってくる余地はありません。よそものが入ってくるということは、その自然が壊されていくということなのです。だから、そこ

によそものが入ってくる余地のないように環境を維持するのが、自然を守ることです。自然に対する畏敬や謙虚の念がないと出来るものではありません。

自然を見るということ

タデ原にはヒメユリやサクラソウといった花が咲きますが、これらのほとんどは昔から愛（め）でられた花で、万葉集にも数多くうたわれました。私たちは、1200〜1300年前の人が見たのと同じ花を見ることが出来るし、そのことで同じ気持ちになり、同じ感動を味わうことが出来るのです。本だけでなく生きたものから歴史を学ぶことが出来るわけで、観光とか資源としてだけで自然を見るのではなく、そういった広いところから見る必要があります。今、「九重の自然を守る会」では3年計画で植物図録作りに取り組んでいます。図鑑は花とか葉っぱの様子を写真で紹介し、解説したのですが、図録はそれだけでな

く、植物に関する伝説や民話、俳句なども盛り込み、いろんな方面から植物を知ろうというものです。たとえば、私たち現代人は「もみじ」を漢字で書くと「紅葉」と書きますが、万葉集で「紅葉」と書いたのは1首あるきりで、大半は「黄葉」と書いています。この「もみじ」は、糖分が多いほどアントシアンという化学成分のおかげで赤く色づきます。夏に太陽の光をたっぷり浴び、うんと糖分を蓄えたものほど、赤く染まるのです。そういう話をすると、より自然に親しみを感じるのではないでしょうか。冬の芽を見てどんな花が咲くのだろうと想像するのも楽しいものです。

自然と友だちになる

自然を知るとき、動植物の名前を覚えることはとても大事ですが、それが目的ではありません。自然観察会であるとき、子どもに「あの植物は何だ？」と聞くと、「草」と答えました。これは間違いではありません

ん。それを肯定した上で、さらにひとつ踏み込んで、段階を踏み、自然のことを知り友だちになることが大事なんです。たとえば、ススキを観察するとします。ススキを材料に使ったものに「茅葺き（かやぶき）屋根」があります。茅原（かやはら）という地名もある。ススキは人間が使うと力やと呼ぶようになるし、歌になると尾花になる（万葉集：高円の尾花吹き越す秋風に）。ススキをさわるとケガをすることがありますが、虫眼鏡やルーペで覗いてみると、葉っぱがのこぎりみたいになっているのが分かるはずです。ススキひとつからも、いろいろなことが学べます。

「そこに白い花があるのがわかる？」「何の花？」「花びらは何枚？」と自然の中に入っていく。それが自然観察です。

一人でも多くの人に自然に近づいてもらい、「自然と友だち」になってもらいたいと思います。



2→3ページに掲載した「九重の自然はウツクシイ」はラムサール条約登録記念式典（4ページ）での嶋田裕雄さんの講話「くじゅうの自然について」を文字起こししたものです。

くじゅう坊ガツル・タデ原湿原が ラムサール条約登録湿地に



▶記念式典

▶記念の集い

▲記念式典終了後、参加者はタデ原を散策

この自然を 次の世代に 渡す契機に

国際的に重要な湿地を保全するため
に定められたラムサール条約登録湿地
に「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原
(91ヘクタール)」が選ばれ、11月19日
に長者原ビジターセンター駐車場で記
念式典が行われました。参加した約2
00人は、より優れた自然として次世
代へ遺(のこ)せるよう決意を新たに
していました。

式典では、実行委員長の嶋田裕雄さ
ん(九重の自然を守る会会長)が「条約
に登録されたということより、登録さ
れるような自然があることがうれしい。
先人たちが自然への畏敬の念や謙虚な
気持ちを持ち続けたことが、美しい自
然が残ることにつながっている。今日
は、ただ単にお祝いの式にするのでなく、
この自然を次の世代に渡す契機の式典
にしたい」とあいさつ。坂本町長も「こ
の登録は町民すべての喜びであり、物
言わぬ動植物、自然も喜んでいるはず。
世界の仲間入りに恥じないよう保護に
取り組むとともに地域活性化にもつな
げていきたい」と述べました。

このほか式典では、自然保護に取り
組んできた竹田市、九重町の8団体に
感謝状が渡され、大分県と竹田市に対
して認定証の交付が行われました(九
重町へは11月8日、15日の同条約締結
国会議で交付済み)。

参加者は、嶋田裕雄さんの講話「く
じゅうの自然について」(2↓3ペー
ジに掲載)を聞いた後、隣接するタデ
原湿原を散策しました。

また、町内に自然学校設立を目指し
ているセブニーイレブンみどりの基金
主催による「ラムサール条約登録記念
の集い」が同日午後に九重ハイランド
ホテルで行われ、約1000人が参加し
ました。

開会行事で、みどりの基金理事の秋
山英敏さんは「地にしっかり足をつけ
て、先人が守り続けた自然を次の世代
に引き継ぐ活動をしていきたい」と話
した上で「ラムサール条約とは何なの
か、私たちは何をしなければならな
いのか考え、学んでいきたい」と集いの
趣旨を説明しました。また共催の九重
の自然を守る会理事長の渡高格雄さん
は「ラムサール条約のニュースをきつ
かけに自然観察会の人数が増えている。
坊ガツル・タデ原のすばらしさを伝え
ながら、心地よい飯田高原を後世に引
き継ぎたい」とあいさつしました。

集いでは、高橋裕二郎さん(飯田高
原野焼き実行委員会と坊ガツル野焼き
実行委員会の副会長)の野焼き事例紹
介や1993年にラムサール条約に登録
された霧多布(きりたつ)湿原(北
海道)で保護活動に取り組む伊東俊和
さん(NPO法人霧多布湿原トラスト
事務局)の基調講演、パネルディス
カッションなどがありました。伊東さ
んは条約への登録を契機に住民の間に
湿原を守ろうという意思が生まれてき
たことや住民と行政が協働で建設し
た体験参加型のビジターセンターなど
について話をしました。

タデ原を訪れたときはここに寄ろう 長者原ビジターセンター



お土産コーナーもあります。人気は、くじゅうの自然を写したポストカード(1枚50円)と登山マップ。登山マップは、「自然を守る会」のみなさんが実際にコースを歩き距離などを測ったものです。



書籍も売っていました。人気は「九重に咲く花(上野哲郎写真・文)」と「九重の自然(嶋田裕雄著)」の2冊

ラムサール条約に登録され、国際的湿地となったタデ原。そこに隣接するのが長者原ビジターセンターです。くじゅうの自然の様子を模型や写真、映像などでわかりやすく紹介するミニ博物館で地上1階・地下1階の2階建て。
タデ原の遊歩道への出口のある地下1階には7000分の1の大型模型と連動した見所案内ビデオがあり、情報が充実。タデ原への予習・復習にも良さそうです。また1階にはくじゅうの四季の美しさをハイビジョン映像で見ることの出来るレクチャールームなどがあります。
入場は無料で、開館は午前10時から午後4時まで。休館日は毎週月曜日と、祝日の翌日。

来年は もっと広がる トキこども大使



水曜日の午後、飯田にある「九重ふるさと自然学校(仮称)開校準備室」は、ひときわ賑やかになります。
集まっているのはトキこども大使の8人。飯田地区の小中学生から選ばれた大使は今年8月に新潟県佐渡市でトキ保護活動について研修(広報11月号8ページ参照)。そこで学んだことなどをもとに「トキが住めるような自然を取り戻す」活動を始めました。

想定している広さは約10アール。取材した日は、小中学校から歩いてすぐに行けるなどの条件をあげ、地図を見ながら候補地さがし。その後、見つかった候補地への探検をしました。
こども大使は、来年3月までにピオトープになる土地を決定するほか、学んだことをまとめ、小中学校や公民館に掲示。米作りなどにも挑戦したいと話していました。

一方、開校準備室を設置している「セブンイレブンみどり基金」は、町全体がキャンパス、フィールド(活動場所)とした自然体験などを盛り込んだ自然学校を平成19年春目標に開校する予定。準備室には職員2人が常駐し、プログラム開発などを進めるほか、来年も「トキこども大使派遣事業」に取り組みたいとしています。



今月号の表紙を描いたのは

辻朋子さん。自然学開校準備室職員の一人です。農業を通じて環境復元や保全などを担当。左下写真の右端が辻さん。あるイベントで見かけた辻さんのイラストがうまかったので、聞いてみると美術学校出身とのこと。どうりで! さっそく今月の表紙を描いてもらいました。

自律のまちづくりに向けた町づくり懇談会

東飯田地区（10月31日）



飯田地区（10月28日）



野上地区（10月26日）



南山田地区（11月1日）



かつて経験のない まちづくりに挑戦

NOTE

経常収支比率とは
財政のゆとりを見る指数。低いほど良い。町税・地方交付税など毎年決まって入ってくる使いみちを制限されない収入に対して、必ず支出しなければならない経費（人件費・公債費・扶助費など）がどれだけ占めるかを表す。

NOTE

パブリックコメントとは
政策を決定する際、その前に住民から意見を募る制度。

「自律のまちづくりに向けた町づくり懇談会」が10月26日から11月1日まで町内4カ所で行われました。

現在策定中の「自律推進計画案」の紹介と「今後5年間の財政推計」について、住民と町とが意見交換を行うもので、4日間で合計350人の住民が参加しました。

懇談会ではまず各地区の区長代表があいさつ。野上地区では藤澤昌由さんが「かつてないまちづくりを私たちは経験している。『みんなでまちづくりをする』という発想の大転換をしなければならない。その上でなら、みんな決めて成功するのはいいが、たとえ失敗しても次に向けての挑戦につながる」と述べました。

坂本町長は、情勢や国内での取り組み事例にふれながら「行政改革はあれもだめ、これもだめではなく、やる気があり、かつ金もかからないまちづくり」をしていきたいと説明しました。

「財政推計」によると、経常収支比率（↓NOTE）は、このままで行くと平成19年度は94・8%まで悪化するとされ、これを「自律推進計画」に盛り込んだ職員の定数削減や事務・事業の見直しを行うことで90%に抑えたいとしています。

今回の懇談会やパブリックコメント（↓NOTE）で寄せられた意見などを参考に町では今年中に自律推進計画を策定。来年2月から4月にかけて、回数を増やすとともに、なるべく規模を小さくした懇談会を開催。住民に対し、自律に向けた取り組みについての説明をしたいとしています。

住民のみなさんの声

「町づくり懇親会」で住民のみなさんから出た意見や提言、質問からいくつかを選んで掲載します。色が変更になっている部分は質問に対する町からの回答です。

VOICE

支出削減だけでなく、収入を増やす財政計画は考えられないか。税金を増やすのが難しいとしたら、ほかのことで収入を増やすのを考えた？税金を増やすためにはそれぞれの業種で収入を増やすことだが、町民が豊かになることを考える場を作ってもらえないか。

歳入が増える要素は少ない。環境税等を新たに導入する方法も考えられるが、負担が増えるものについては慎重に考えた。大吊橋の収入にも期待している。「町民が豊かになることを考える場」については、「地域づくり協議会」等を設置しながら検討していきたい。

行政区、4地区でまちづくりを競い合うことも大切では。そのためには各地区公民館がリーダーとしてがんばれるような体制作りをしてもらいたい。

公民館を中心に、いろいろなことに取り組みたい。地区の人が自主管理し、自分たちで出来ることは自分たちで行うような取り組みもしてほしい。

小中学校の再編については「最初に統合ありき」では不安が大きい。メリットなどを十分説明し、保護者が納得した上で結論を出してほしい。

子どもの学習する場がどうあればいいのかを基本に考えていきたい。学校再編は検討委員会で協議中だが、来年夏までには方向を出したい。

温泉館など公共施設を利用したことのない人が多いのでは。無料券配布や広報紙などでアピールしてはどうか。

自律推進計画が回覧で回ってきたが、時間の余裕がなくてじっくり見る事が出来なかった。計画は十分な理解を得ることがなければ住民の協力も得られない。住民の義務として計画に目を通したり、町の説明に耳を傾けたりしなければならないし、意見も言わなければならない。まちづくりについて行政区単位の集会などで説明してほしい。

計画には、人口を増やすことがふれられていない。経費削減ばかりではおもしろくなるので、人口増について計画でふれてもらいたい。

計画は削減の内容が多く、夢があまり感じられない。将来像が描かれてはいるが、もう少し具体的数値をあげるべきではないか。

あらゆる面でブロードバンド(高速インターネット)が必要。経済効果も大きいので、早期の取り組みをしてほしい。
平成18年度から取り組みたい。

合併しないと住民で決めた以上、がんばらなければならない。財政状況を包み隠さず公表しているのは高く評価したい。一から出直そうという気構えが感じられて良い。「小さくともキラリと光る町」のキラリと光るものはなんだろうか。自然のすばらしさもそのひとつなので、これを打ち出してほしいものが出来るのでは。

キラリと光るまちづくりには環境問題をぜひ入れてほしい。「子育てするなら、いい環境の九重町に行こう」という町になれば人は減っていかないと思う。よそから見ると、九重町は生活にいいことがいっぱいある。そこを見直してほしい。

農業と観光を結びつけることが必要。観光客に農産物をおみやげにもらえるよう、またホテルで使ってもらえるようなことを考え、町全体が潤うような経済効果を期待。

農業は九重町の基幹産業。しかし、国の方針は大規模化を指向しており、九重町の大部分はあてはまらない。そうになると、計画の将来像「豊かさと活力を生むまちづくり」は実現しないのではないかと。

国の今後の方針は、担い手（認定農業者4ha以上、一定の集落営農組織20ha以上）への支援を集中化、重点化する考え。このままでは小規模農家を守ることが出来ないで、集落営農についての方針を早急にまとめ18年度中に組織化を考えたい。

職員研修の充実の中に「時代の変化に対応できる職員像」というのがあがるが、住民に密着し、高齢化社会に行き届くような指導をしてほしい。ただの給与取りの職員にはなってほしくない。

現段階では、町は果たして住民と一緒にやっという気構えがあるのか疑問。計画を絵に描いたもちにするのではなく、職員が地域の中に入って話を聞くような体制をつくってほしい。

助役・収入役不在で大丈夫か？

組織機構改革を考えており、助役・収入役不在でも機能する組織を作りたい。

自律のまちづくりは、私たち(住民)の力を呼び起こしてあげれば必ず実現できる。お互いに意見を戦わせて町をつくっていく姿を子どもたちに見せれば、子どもたちもいい大人になるのでは。

自助・共助・公助とあるが、自助の部分が良く見えない。自分たちに大きく関わる場所だけに、果たして自分たちに可能かということを含め、引っ掛かりを持っている。このことについては、いろいろな情報がほしい。

戦死者に生き延びさせてもらった… その思いを持ち続けて



旭日双光章を 受章した佐藤 巖さん

「身に余る思いです。この受章は私一人のものではありません。支えてくれたすべての人に心から感謝しています」平成17年秋の叙勲で、長年、戦傷病者の暮らしを支えたことなどが評価され、佐藤巖さんが旭日（きよくじつ）双光章を受章しました。「支えてくれたすべての人に…」その中には、戦場に散った多くの戦友たちも含まれています。

昭和15年、18歳の佐藤さん

は、陸軍を自ら志願。国内初の落下傘部隊として訓練を受けました。昭和16年12月8日、太平洋戦争開戦。日本は石油資源を求め、南下政策をとりました。その要所とされたのがスマトラ島。当時オランダ領となっていたこの島を奪回するのに大きな役割を果たしたのが「バレンバン落下傘部隊」。上空300メートルから降下する部隊の中に佐藤さんがいました。約350人で展開されたこの作戦もまた激烈なものでした。日本軍は70人以上の戦死者を出し、佐藤さんも銃弾を受け両足を負傷します。

「私は男ばかり6人兄弟の5番目でした。兄弟のうち3人が戦争に行き、弟が昭和19年、特攻隊で戦死しました。当時は軍隊に行き、国のために尽くすのは当たり前のことだと思っていたから、何の疑問も持たなかったし、そんな軍国

主義の教育を受けてきました。しかし、次々に戦死者が出てくるのを見ると、悲惨なことだと思っていましたね」

永遠の別れがいつも身近にありました。自分自身もいつ死ぬか分からない。そんな状況下、語り継がれることのない悲劇がいくつも生まれました。佐藤さんの同じ部隊には玖珠郡出身者が3人いました。ある日、3人は基地の格納庫に集まりこう話します。

「もしこの中で誰か死んでも、その時は生き残った者が詳細を家族に必ず伝えよう」

そう話した3人のうち、一人が戦死します。その人は結婚して10日足らずで出征。戦後、親が死に、妻だった人もほかの人と結婚。身寄りがなくなつたその人の墓は、佐藤さんたち戦友によって守られているといいます。佐藤さんは話します、「戦友というのは兄弟以上の絆があるのかもしれない」。

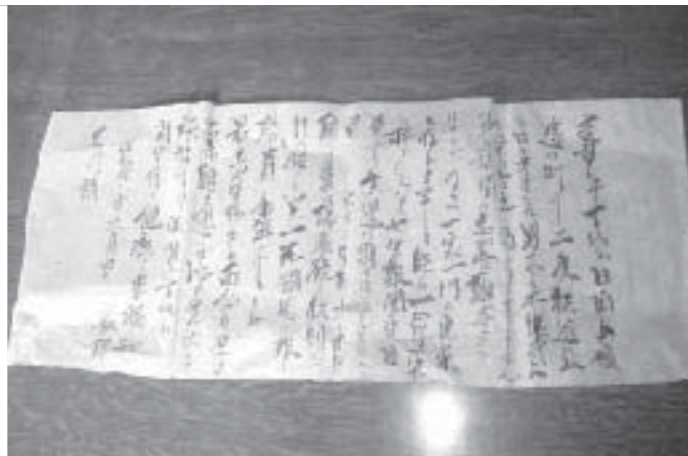
「私が（基地のあった）宮崎県から軍用列車に乗って戦地に行くとき、途中停車する大分駅に両親が力チグリやばた餅を作って見送りに来てくれたことがあったんですが、両親は憲兵に阻まれてホームには入れませんでした。しかし、両親はあきらめずにずっと改札のところで待っていました。『列車がいつ来るかわからない』と父がうどんを食べ

佐藤さんが家族に宛てた遺書。

「一命は陛下に捧げたもの。七生報国の覚悟。素より生還は期せざるものと信じ」とある。七生報国（しちじょうほうこく）とは、七度生まれ変わっても、国に奉じ、その恩に報いるという意味。



出征時や任地先での寄せ書きの書かれた日章旗。



戦時中、兵士たちに配られた「御賜(おんし)の煙草」、天皇からいただくもので、「最高の名誉」とされた。天皇家の菊の紋章が入っている。

◆ に行った間に私たちの乗った列車が通過しました。母が改札から「イワオー」と手を振ってくれているのは見えたのですが、父の姿を見ることは出来ませんでした。父は、それから少ししてガンのために亡くなりました。本当は、あの時が最後の別れになったのかもしれないのですが・・・父の死後、昭和18年6月。残された家族に宛て佐藤さんは遺書を書きました。

終戦の日、昭和20年8月15日はサイパン島への出撃準備中でした。正午からの玉音放送を聴いたときは「非常に情けないと思いました。一生懸命やってくれて、死んでいった戦友たちに申し訳ないと思いました」。

シヨックからはしばらく立ち直れませんでした。「自分も死んでしまいたい」とさえ思ったといえます。

「(戦争が始まってから) 64年間、長生きをさせてもらいました。戦死者に対して生き延びさせてもらった、その恩返しに、英霊に感謝しながらボランティア活動などに取り組んできました」

戦後、九重町に帰ってきた佐藤さんは農業に従事する傍ら、傷痍軍人会などで活動(現在、大分県傷痍軍人会会長)。

戦争で手足を失うなどの障がいを負った人たちの援護や恩給の世話をしてきたほか、一人暮らし高齢者への弁当配達

などのボランティア活動や社会福祉団体の役職などを務めてきました。また、日本で相狭間にだけ生息するというブングボダイジュの木(県指定文化財)の管理も続けています。

終戦当時町内に50人ほどいた傷痍軍人も月日の流れとともに亡くなっていき「傷痍軍人」という言葉も忘れられようとしています。

「時代の流れかもしれませんが、国のために傷ついた人たちの名前だけでも、せめて残してほしいと感じています。戦争は絶対にはなりません。民間人にも多くの犠牲者が出るし、膨大な経費がかかった。家は裕福ではなかったのに、弟は戦死して恩給を残し、親孝行が出来たのかもしれないが、こんな親孝行は二度とあってはなりません。命が軽々しく思われる時代でした。私たちは軍国主義の中に育ち、教育を受けてきたから、戦争でいつ死んでもいいと思っていました。だから教育というのは重要です。戦争の悲劇を二度と繰り返すことのないよう、しっかりと後の人たちに伝えていかなければなりません」

現在でも身体は元気で、農作業もこなしています。84歳。これからも身体が続く限り社会に奉仕をしていきたいと話します。

第66回大分県畜産共進会でブランドチャンピオン

第66回大分県畜産共進会が10月30日に別府公園文化ゾーンで行われ、佐藤秋男さん・フキ代さん夫婦の出品した3頭がブランドチャンピオン（農林水産大臣賞）に選ばれました。

この大会は肉用牛などの育種改良や経営の合理化、畜産物の消費拡大を目的に毎年行われているもので、肉用牛の部には雌牛69頭が出品（九重町からは7頭）。大分県では、「これぞ大分産」と言われるような「Theおおいた」ブランドの確立に力を入れており、豊後牛はその代表。佐藤さんの和牛は、おおいたブランドのシンボルとも言えます。

「びつくりして、最初は回りの人のほうが喜んでいたのですが、後からじわじわと喜びをかみしめています」と受賞の感想を話す佐藤さん夫婦が住む菅原地区は、以前秋祭りで牛が行列に参加していたなど、畜産が盛んなところ。現在でも13戸の和牛飼育農家があり、町内有数の畜産地帯の地位を保ち続けています。共進会当日も地域をあげて応援に駆けつけ、祝賀会は無家畜農家も参加し盛大に行われました。

「受賞はみんなのおかげ。一軒だけとはとることが出来なかったものです」と佐藤さん夫婦。

県の共進会への出品は2回目。今回は雌牛3代の3頭セットで出品したことで、苦勞も多かった様子。8月の郡品評会で県共進会に出ることが決まってから約50日、朝夕の手入れを欠かさず本番へ備えました。その間、佐藤さん夫婦の目から見ても姿かたちが随分と良くなったそうです。出産したばかりの親牛がいたので、体型が落ちないよう特に気を使ったと言います。

「生まれたときオスかメスか、そして市場に出したときどれくらい値がつくのが楽しみです」

現在は成牛7頭と育成牛2頭を飼育。

糸福（いとふく）という、「豊後牛」を全国ブランドに押しあげた種雄牛がかつていました。生まれたのは1983年11月、玖珠町。2002年1月に死亡するまでの生涯で3万9157頭の親牛となり、いつしかスーパー種牛と呼ばれるようになりました。糸福を父とする子牛は発育と肉質が抜群によく、市場価格が平均30万円とすると40〜50万円はつくといい言います。今回受賞の一頭も糸福が父親。

糸福なき後、さまざまな流れを引いた種牛が使われるようになってきていますが、市場価格は安定して推移。米国产牛肉の輸入がストップしたままとなっているのも好材料となっているようです。

「しかし、近い将来、輸入再開が見込まれており、市場価格への影響が若干見られるかもしれませんね。しかし、安全・安心な牛を育てていけば、いい水準を保てるのではないかと考えています」と分析。

何よりも、市場価格の安定を支えているのが農家の高い飼養技術です。菅原地区には、昔から畜産農家による管理品評会があり、畜舎の管理状況などを定期的にチェック。放牧導入も品質向上につながっているようです。

畜産だけでなく他作物でも農家同士の結束が固いのが菅原地区の特徴。同地区では作目ごとの部会を作り、農産物の品質や生産性の向上だけでなく地域の活性化にもつながっています。ライバルになったり、励ましあったりしあう仲間がいるのが心強いと言います。

佐藤さん夫婦は、椎茸やトマトにも取り組んでいます。「今年はやっぱり畜産が最高でした」。毎年12月はトマトハウスの片付けと椎茸のホダ木出しに追われます。これが終わらないと年を越せないと言います。

「土地があるからね。これだけは先祖から受け継いだものだから守っていかなければならない。農家の人はみんなそう思っています」

昨年は、台風でトマトハウスが大きな被害を受けたものの根気強く作業を続け、その年のうちに復旧。農家をよめたいとか嫌になったことはないと言います。信念は「サジを投げない。最後まであきらめないこと」。

身体が続く限り農業を続けたいと話します。



最後まであきらめない 農業を続けたい

佐藤秋男さん・フキ代さん夫婦



第12回全日本ホルスタイン共進会で2頭が入賞

全国の酪農家が目指す大会があります。

全日本ホルスタイン共進会。5年に1回開催されるもので、乳牛改良のオリンピックと呼ばれています。

第12回全日本ホルスタイン共進会が11月3日から6日までの4日間、栃木県壬生（みづ）町で行われ、全国から選りすぐりの乳牛304頭（出品者277人）が未經産・経産、それぞれ月齢ごと合計12部門に分けられ、姿かたち、特質などを競いました。大分県から出品されたのは3頭。そのうち2頭が岡嶋建一郎さん（旭）が飼育

しているもので、未經産部門16月以上18月未満（3部）でヒルアイランド・チャンピー・リードオフ・クリスが2等賞の5席、経産部門36月以上42月未満（3歳ジュニア・8部）でヒルアイランド・リードオフ・クリス・レイダーが1等賞の5席を受賞しました。

乳牛の名前が長いのは系統を明らかにするためで、岡嶋さんは「わが家の系統の牛で入賞することが出来てうれしい」。代を重ねるごとに体型などが着実に良くなっているそうです。

今回の共進会へはフェリーと高速道路を乗り継いで1日以上かけて参加。この間、食事がきちんと取れるようにするなど、良い状態を保つことに細心の注意を払いました。特に1等賞5席をとったレイダーは、大会出場も5回目。昨年は「第4回九州連合ホルスタイン共進会」第7部で名誉賞を獲得。今回も落ち着いた状態を保てたのが功を奏しました。

「しかし、今回の共進会では、あらためて北海道のすごさを思い知らされました。こういう牛が出来るのか、とあこがれるようなものをたくさん見ることが出来ました」北海道は、えさが取れにくいなどの悪条件にもかかわらず、良い牛をたくさん産出しており、以前から「目標は北海道」と話していた

岡嶋さん、より今後の酪農経営に熱が入った様子です。

「北海道は視野に入ってたかですか？まだ、ずっと前を走っている感じですね。やっと遠くに背中が見えたか、見えないうらい」

次の共進会開催地は北海道。「ぜひ出てみたいです」

今年4月に畜舎を新築。100頭を搾乳できる広さがあり、現在は60頭を飼育。いずれは100頭まで拡大し、未經産牛の販売にも取り組んでみたいと語ります。

「（畜舎新築で）つなぎ飼いでフリーな状態になったので、牛たちもストレスが少なくなり、以前よりも健康になったようです」同時に堆肥舎も建築。良質な発酵堆肥を自分の牧草畑に使うことで、いい餌作りも出来、これも牛の健康にとって、大きな効果があります。

「全国的に牛乳の消費が低迷し、乳価も下がってきています。いつ生産調整が出てきてもおかしくない状態です。これからは、いかに1頭の牛を健康に保ち、さらにおいしい牛乳を作っていくのが重要になってきます」

岡嶋さん宅は3代前から続く酪農家。祖父の禎蔵さんが昭和30年代に建設した「赤い屋根の畜舎」は飯田高原のシンボリック存在で多くの写真にその姿を見ることが出来ます。「祖父や父を誇りに思う」と話す岡嶋さんも自然と家業を継ぐことに。北海道で畜産を学んだ

終わりにき 挑戦は続く

岡嶋建一郎さん

後、酪農経営にたずさわります。「今回の共進会にも全国から友人や先輩が多く駆けつけてくれ、情報交換もたくさん出来ました。全国に仲間の出来るのが楽しいです」大学の乳牛研究会のOB会に参加したり、全国の同じ年齢の酪農家が集まった「43年会」に加入したりと交流の輪が広がっています。酪農の魅力は、「終わりが無いこと」と岡嶋さんは語ります。「飼養技術とか何にしても、日々進歩しているのが酪農です。やると目標に手が届くかなあと思っても、まだまだ上があるし、次々に目指すものが現れる。それが魅力だし、自分にとってのエネルギーになっていきます」若手酪農家の旗手として注目され続ける岡嶋建一郎さん。「酪農家としての折り返し地点？まだ、まだ到着していないと思います」



つながりから生まれる、おいしいもの

この催しで
絶品キムチを発見
作ったのは・・・



▲左が合谷さん、右が佐藤さん



スイートポテト



町内からフラワーアレンジメント



▲鳴門金時は焼きいもにしても美味



蒲江から塩

販売業者や消費者との交流から「農業」の新しい可能性を探る動きが各地で盛んになってきています。新たなつながりがまたひとつ生まれました。

日田市内の異業種が集まった地域づくりグループ「技術・市場交流プラザ日田」が開発し今年の夏から販売を始めたお菓子「豆田ぼてと」の材料として「九重産のサツマイモ」が注目を集めています。

「豆田ぼてと」は、サツマイモの生地の中にカスタードクリームが入ったスイーツポテト。中心になって開発したのが合谷幸生さん（膳処うや亭代表取締役）。

「材料となるサツマイモは日田市内で確保できなかったの、宮崎や鹿児島からの紅系の品種を使ってきましたが、鳴門金時（なるときんとき）が甘みが強く、しっとりとした肉質で材料としては一番と聞いていました」

しかし、鳴門金時は作るのが難しく、収量もあまりあがない品種。合谷さんは続けます。

「ぜひ、使ってみたかったのですが、まとまった量を作る農家がなかなか見つからなかったんですよ。ところが意外なところがありました」

「意外なところ」とは、合

谷さんと旧知の間柄の佐藤和則さんが経営する会員制体験農場「サンアグリ」。

佐藤さんは、5年ほど前から鳴門金時を無農薬で栽培（現在約20アール）。さつそく11月2日に現地で「技術・市場交流プラザ日田」メンバーなど約20人が参加し、芋ほりと試食会が行われました。この日は新たにチョコレートや抹茶クリームの入った「豆田ぼてと」も登場。試食した人からは「持ったときの重みと、軽やかで上品な甘みの組み合わせが絶妙」と大変好評でした。また、蒲江で「自然製法の塩づくり」や町内で「アイガモ米」や「フラワーアレンジメント」に取り組んでいる人も商品を手に参加、交流を深めました。

佐藤さんは「いろいろなところで閉塞感が出ているが、農家と販売者、消費者が声を響き合わせることで、新しいことが開けてくる。これからもこのつながりを大事にしていきたいです」。一方、合谷さんも「地元の農産物を使っていたいんです。しかし、どこにどんなものがあるという情報がなかなか手に入らないので、異業種間で情報交換ができる場がほしいですね」と話していました。

おいしさは人と人をつなげる

ある催しで、絶品のキムチを発売しました。
出どころを聞いてみると、中巢の日野道夫さんが趣味で作っているものだったか。

前から作っているナスのからし漬は特に定評があり、今年も頼まれて6回ほど作りました。鉄火味噌も得意料理の一つです。家族によると、以前からけっこうまめに家のことをいろいろとしていた様子。

漬物作りを始めたのが2年前。

以前から興味はあったそうですが、「お金をかせば買えるけど、自分で作ったものは違うはず」と一念発起し「新漬物読本」という本を購入。これを教科書に勉強を開始すると、持ち前の研究熱心さを発揮し、みるみる上達。

「やつぱり漬け上がったときの喜びは格別ですね。それに、みんなからおいしいと喜ばれたり、漬けるので、その種類は無数。以前から作っていたナスのからし漬は特に定評があり、今年も頼まれて6回ほど作りました。鉄火味噌も得意料理の一つです。家族によると、以前からけっこうまめに家のことをいろいろとしていた様子。」

「今日あたりがちょうど食べごろです」と漬けあがったばかりのキムチ3種類を出してくれました。約20種類の材料を入れて作るというキムチは、辛さの中にも芳醇な旨みと自然な甘さが広がります。砂糖は使わず、水あめや蜂蜜を使うのもこだわりのひとつ。

作るのには、キムチだけではありませぬ。白菜、高菜、キュウリなどの野菜を、塩漬け、酢漬け、べつたら漬けなどさまざまな方法で漬けるので、その種類は無数。以前から作っていたナスのからし漬は特に定評があり、今年も頼まれて6回ほど作りました。鉄火味噌も得意料理の一つです。家族によると、以前からけっこうまめに家のことをいろいろとしていた様子。」

漬物作りを始めたのが2年前。以前から興味はあったそうですが、「お金をかせば買えるけど、自分で作ったものは違うはず」と一念発起し「新漬物読本」という本を購入。これを教科書に勉強を開始すると、持ち前の研究熱心さを発揮し、みるみる上達。

「やつぱり漬け上がったときの喜びは格別ですね。それに、みんなからおいしいと喜ばれたり、漬けるので、その種類は無数。以前から作っていたナスのからし漬は特に定評があり、今年も頼まれて6回ほど作りました。鉄火味噌も得意料理の一つです。家族によると、以前からけっこうまめに家のことをいろいろとしていた様子。」

方を教えてくれとか言われたりすると、またうれしくて、さらにはまづてしまいました」と笑顔の日野さん。最近では物産館に出してみないかと言われるまでになりましたが「商品化しようとするなら、安定的な味にしなければなりません。キムチはそのレベルになってきたかな。いずれは商品化してみたいと思っています。今はその準備中」。

漬物はまさに生き物。食べ時もちろんですが、漬ける日数などが少し違うだけで仕上がりや味が随分と違ってきます。そこがもしろさであり難しいところ。だと日野さんは話します。

日野さん宅は水稲やカスミソウ、和牛などに取り組む農家。昼間は農作業で忙しいため、漬物に取り組むのは夜が中心。時ならぬときに、包丁のトントントンという音やキムチの材料となるニンニクをいためる音と匂いがすることがあります。

「朝4時ごろから起きてすることもありまして、夜中に気になって漬物作りを始めることがあります。寒いとか眠たいとかいうのは忘れてしまいます。ぜんぜん辛（つらくありません）」

今では家の漬物や保存食は日野さんが一手に引き受けており、毎回の食卓でも話題の中心になるのが漬物。

「子どもや孫たちも良く食べてくれます。家族の評判を聞くのも楽しみですね」

妻のエミ子さんが「私が作るのよりもおいしい。これからは、はまづて作ってほしいです（笑）」

と話せば、道夫さんも「ハイ。間違わないように漬けていきます」。うまく作るコツは分量をしっかりと守ること。

漬物は野菜の栄養素がしっかりと残り、食物繊維もたっぷりの健康食。日野さんも「漬物は、うまく食べれば決して塩分を取りすぎることなく、健康の基です」。

しかし、自分でつけた漬物を肴に酒を飲むとついつい進みすぎて「健康診断の結果はあまりよくありません（笑）」。

まだまだ続く漬物作り。今度は自宅の倉庫を改造、漬物倉庫にしました。

取材した日、分けていただいた「キムチ」を手に、めざすはもちろん、白いご飯でした。



日野さんは鉄火味噌も得意

で、ごはんをおかわり



趣味で豊かさを実感

SCRAP

第5回のがみ文化祭が11月12、13日の2日間、野上小学校体育館で行われ、作品展示と芸術発表（13日のみ）が行われました。

「公民館活動の輪を野上地区全体に広げよう」と、かつての「野上公民館祭り」の装いを一新して始められたこのお祭り。年々中身も充実しており、参加者も増加傾向。今年は「お話」や「舞踊」「合奏」など17の発表があったほか、会場内には絵画や手芸などの作品を展示。野上の文化が大集合していました。実行委員長の藤澤昌由さんは「まだ地区内には、掘り起こし出来ないヒトやモノがたくさんあるはず。中身をさらに充実し、趣味を通じて暮らしや心の豊かさを実感できる地域づくりをしていきたい」と話していました。



SCRAP

暮らしの安全をしっかり勉強

高齢者の生涯学習の場を提供し続けている寿大学の防災訓練が11月22日に保健センター前の広場で行われました。災害弱者とされる高齢者が、防災知識を身につけ、いざというときの安全を確保できることをめざし、同大学の講義として昨年から行われているもの。

この日は、玖珠消防署職員2人が講師となり消火器の使い方、説明。実際に高齢者が消火を行う訓練が行われました。

同大学では、このほか交通安全や悪徳商法などの講義もあり、「暮らしの安全」もしっかりと勉強することが出来ます。

SCRAP

今年も大収穫



障がいのある人たちの軽作業施設わくすたんぼぼ（玖珠町）の芋ほりが11月25日に陣の内にある佐藤新八さんの畑でありました。「陣の内の考える会」が4年前から行っているもので、今年は20人が参加。30分ほどかけてサツマイモの収穫をしました。

この取り組みは「陣の内の考える会」メンバーの一人高倉英俊さんが日田養護学校の生徒を受け入れたのをきっかけに、障がいを持った人たちのために何かできないだろうかと考えた際に、わくすたんぼぼが農作業体験のできる畑を探しているのを知ったことから実現。

高倉さんによると、今年のサツマイモの出来は今ひとつだそうです。約2アールの畑から30キロ入り袋5袋分の収穫がありました。

採れたサツマイモは持ち帰って焼き芋やスイートポテトにしました。わくすたんぼぼ関係者は「毎年声をかけてもらって、ありがたい」。

同施設にとって農作業体験ができる機会は少なく、大変貴重な時間をすごしていました。

SCRAP

この電飾はすごい



クリスマスに向け電飾を多く見かけるようになりました。

その中でも、南山田・中村地区にある電飾は「一見の価値あり」の力作。まずは写真をご覧ください。メインとなるツリーは高さ約6メートル。同地区では10年ほど前からどんと焼きをしています。そのやぐらを電飾で飾ったのがこのツリー。「どんと焼きだけに使うのはもったいない」と電飾で飾り始め、年々バージョンアップ。今年もみの木や雪だるまの電飾もありました。組み立てたのは、地元の青壮年8人が1日ばかりで。デザインはメンバーの一人が考えたもので、てっぺんの星がゆっくり点滅するなど大変凝っています。

電飾は来年のどんと焼き（1月14日）の前日まで。每晚5時30分から10時ごろにかけて点灯です。場所は中村公民館近く。

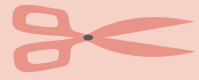
九重町の高齢者は元気

第22回高齢者大学体育大会が10月27日に三島公園グラウンド（玖珠町）で行われました。晴天に恵まれたこの日は郡内の61（うち九重町は28）老人クラブから約550人が参加、盛大な応援の中、地区ごとに4チームに分かれ12の競技をしました。その結果、1位が青チーム（東飯田・野上）、2位が黄チーム（飯田・南山田）と上位を九重町からのチームを占めました。



SCRAP

News



Scrap book

各分野から寄せられた
ニュースを集めました。

玉入れの
玉に当たると
けっこう
痛いです。

SCRAP



丹精こめて

九重町ふるさと祭り菊花展が10月22・23日の2日間、役場庁舎玄関前で行われ、20人から202点の出展がありました。鑑賞菊は咲く様子により数種類に分類され、今年の展示会では、3本の大菊を高く仕立てる「大菊三本仕立」で小田榮代さんが金賞を受賞（写真・九重町長賞を同時受賞）したほか、3本の菊を低く仕立てる「だるま作り」で芳野豊一さん、一本の菊を低く仕立てる「福助作り」で宝珠山ソノさんがそれぞれ金賞を受賞し、11月15日に文化センターで表彰式が行われました。

美しい日本をうたい40年

SCRAP



詩吟朗詠に取り組む「錦城会玖珠支部」が40周年を迎え、11月13日に九重文化センターで発表会と記念大会が行われました。

詩吟朗詠は、玖珠郡内に3つの流派があるとされ、錦城会はその中で最も歴史が古く、現在の会員は72人。17の教場（九重は9教場）があり、会員はそこで日夜練習に励んでいます。

この日は、より開かれた発表会にしようと、関係者だけでなく会員の友人や近所の人にも呼びかけたところ、約150人が来場。会員のほか、県内各支部や長崎県佐世保市から大師範2人の発表がありました。

詩吟は、歴史文化に興味を持ち教養が身につくだけでなく、美しい日本語を、声に出して味わうことで、ストレス発散にも効果があるとされています。

実行委員長で各教場の師範としても活躍している飯田城英さん（錦城会大分県本部本部長）は「お祝いの席などでも詩吟は良く頼まれる。そういう場にもすぐに対応できるように指導をしていきたい」と話していました。

食育ってなあに？

食べ物を選ぶ力
食べ物の味が分かる力

料理が出来る力
食べ物のいのちを感じる力
元気な体が分かる力

保健

今年の7月、①生きる上での基本である知育、徳育、及び体育の基礎づくりと、②様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、③健全な食生活を実践することが出来る人を育てることを目的に「食育基本法」が施行されました。

九重町では

昨年度から要望のあったPTAや学校に出向いて、その地区の食生活改善推進員さんとともに食育学習会を行っています。昨年は淮園小学校、今年は南山田中学校1年生を対象に行いました。



南山田中学校食育学習会

南山田地区青少年健全育成協議会との共催。事前に、食生活改善推進員さん・学校・行政と打ち合わせをして、当日は5～6人ずつの班に分かれ、食生活改善推進員さんのアドバイスを受けながら自分たちでがんばって料理をしました。日頃料理を作っている人、ほとんどしない人とそれぞれですが、班ごとに協力して少し時間はかかりましたが、みんなで作った料理を、笑いながらおいしく食べました。食後は少し食育の話もして「自分の体を作る食」に関心をもってもらいました。

こんな笑顔の食卓が家庭でも学校でも地域でもたくさん見られるといいですね！

生徒の感想

私も家でもっと料理の手伝いをしようと思いました。分からないことは食生活改善推進員さんが教えてくれたのでうまく出来ました。

私は料理が大好きなので次はパンやどんぶり物も作ってみたいとわくわくしました。

作ってみるとあんまり難しくなかったから今度家で作ろうという気になりました。もっといろいろな料理を知りたいと思いました。心と体をつくる「食」の学習では朝食の必要性やかむことの大切さを学びました。

今後食育を推進していきます。来年の3月までなら、要望があれば食育学習会を実施出来ます（残り3ヵ所）！ぜひ要望のある小・中学校（学校かPTA）はぜひ次のところまでご連絡ください。時期や内容等相談に応じます。

問い合わせ先 保健センター ☎ 76-3838

町内の健康応援団のお店を紹介します！ その⑤（全⑥回）

とうふ工房 さくら草

- ① 主要メニューなどにエネルギーのみを表示する。
 - ② 健康情報を提供する。
 - ③ ご飯の量を選べる（要望に応じて）。 などに取り組んでいます。
- 豆腐は、ビタミンや繊維に富んだ食品です。多くの人においしい豆腐を食べてもらいたいと思っています。

そこで、豆にこだわり、①石臼で豆をひく②鉄鍋で煮る③塩田にがりを使っています。自然で手作りのこだわり豆腐（昔ながらの豆腐）を出来たてで食べてもらうことを信条にしています。

住所：九重町大字田野1726-344 電話：79-3118



メニュー 「鉄釜とうふ定食」

ごはん・味噌汁・馬いご・猿とうふ・豆乳・田楽・田舎の季節の味・豆乳ゼリー
*単品でも食べられます。

ウォームビズを始めています

環境省では地球温暖化防止のため、暖房時のオフィスの室温を20℃にすることを呼びかけています。

「寒い時は着る」「過度に暖房機器に頼らない」

そんな原点に立ち返り、「暖房に頼り過ぎず、働きやすく暖かく格好良いビジネススタイル」、をつくっていくのが、ウォーム ビズです。

九重町でもこの「ウォームビズ」に取り組んでいます。

寒いときには着る！

暖房機器に頼らない

<http://www.team-6.net/warmbiz/style/index.html>



湿度アップで体感温度もアップ

暖色系のものを着る

まず部屋に温度計

スリムなシルエットで冷気の侵入を防ぐ

下着を暖かいものにする

ひざ掛けを使ってみる

重ね着をする。でも着ぶくれしない

WARMBIZ

ウォームビズ

役場庁舎だけでなく、九重文化センターや保健センターについても暖房温度を20度前後に設定しています。会議等でお越しの際には、寒くないよう1枚余分に重ね着などをしてください。

年末年始の 休みについて



- 九重町役場は12月29日(木) から 1月3日(火) まで休みとなります。
- 玖珠清掃センターとごみ収集は12月31日(土) から 1月3日(火) まで休みです。年末は大掃除などで大量のごみが清掃センターに持ち込まれ混雑しますので、早めの持ち込みをお願いします。なお、ごみの分別は「人権・健康・環境カレンダー」の最後のページをご覧ください。
- 温泉館「見晴らしの湯」は、12月31日(土) は16時閉館となります(受付は15時で終了)。1月1日から2日は休み。1月3日(火) からは通常開館となります。
- 九重文化センター内の施設は12月28日(水) から 1月4日(水) の間、すべて休みます。また活きいきランドの体育施設も同じ期間すべて休みとなります(野球場は3月末まで休み)。

- 避難のポイント
- 姿勢を低くし、煙を避け視界を確保する。
- ぬらしたハンカチ、タオルなどで鼻と口を覆い、煙を吸わない。
- 視界が悪いときは、壁に手を当て方向を確認しながら進む。
- 階段などは特に注意する。
- 戸やドアを閉めることができれば、火や煙の広がりを防ぐのに効果がある。

建物火災で多数の犠牲者が出るとき、死因の大半が煙に関わっています。それは、煙のほう火よりも速く、広範囲に広がるからです。火災時の煙には、多量の有毒ガス(一酸化炭素等)が含まれています。平成13年9月に発生し、44人が犠牲となった新宿歌舞伎町ビル火災も、約半数が一酸化炭素中毒により亡くなりました。

煙は空気より軽く、天井に向かって上昇し、やがて室内に充滿します。また、水平方向より垂直方向への広がりは、人が歩くスピードよりも速くなります。

避難の際には、できる限り煙を吸わないようにしましょう。

煙の危険性



行政区を越え初挑戦



高齢化や人口減も何のその。運動会を始めた元気な地域があります。

第1回川東公民館祭りが11月13日に小倉神社前の駐車場で行われ、川東上・下両行政区（36戸）から約70人が参加しました。

川東公民館は昭和42年に建築（昭和63年改築）。地域住民の交流の場として活用されてきましたが、同館を利用したイベントがこれまでなかったことから、「さらに住民同士の親交を深めよう」と今回の祭りを企画。実行委員会を結成し、準備を進めてきました。両行政区は山の共有や一緒にチームを結成しスポーツ大会に臨むようなことはありましたが、今回のようなイベントは初めて。

当日は、赤白2チームに分かれて、「パン食い競争」や「輪投げ」など10種目の軽スポーツを1日かけて楽しんだほか、終了後は食事会も行われました。ちなみに結果は「引き分け」だったそうです。

野上小学校児童による通学合宿が11月6日から12日までの6泊7日間、九重町保健センターで行われました。

これは一定期間、共同生活を行い、日常生活のさまざまなことを自力でやり遂げる体験を通じ、児童の自立と自律を目指すもの。

3年目となる今年は4年生から6年生までの17人の女子児童が参加。それぞれが「人のために努力する」や「最後まで係の仕事をする」などの目標を立てた上で、3班に分かれて活動。食事作りや洗濯などを行いました。食事メニューや活動プログラムも児童たちが大人たちのアドバイスを受けながら事前に作成、合宿中は食事ごとに食生活改善推進員が2～3人参加するなど地域住民との交流も図られました。

児童たちは「テレビが見たい（温泉館で少しだけ見た）」や「家に帰ったら思いっきりゲームをしたい」、「お腹がすいて夜中に梅干を4個食べた」と、少し不自由を感じているようでしたが、楽しそうな様子で合宿をしていました。

子どもも 自律を目指します



しばし、 芸術の都に

かこう団代表の
木寺十郎さん。
ネクタイに注目！



11月7日に姉妹都市の佐世保市から「この絵かこう団」45人が町内を訪れ、九重の自然を題材に絵を描きました。

秋に開催されている「九重の自然を描く絵画展」への出展者を対象に毎年行われているもので、今年で5回目。「我々が見てもすばらしいのに、マチの人が見ればたまらんでしょうね。どこでも絵になる」と話すのは絵画展実行委員長藤澤昌由さん。特に長者原付近が人気スポット。参加者の3分の2がそこを選んだそうですが、タデ原がラムサール条約に登録されたことで人気はさらに上昇。また、高田力蔵画伯のスケッチ原画をモチーフにした包みの弁当も参加者に配られ、こちらも好評でした。

出展者との交流会は春にも行われており、絵画展も春と秋の九重を描いたものが多いようです。「冬の九重も描いてもらいたいですね。実行委員会の強化を図った上で将来考えたい」と前出の藤澤さん。

佐世保市のほかに当日は宮崎県延岡市から17人が、翌日には大分市などから18人が絵を描くために団体で来町。九重町は、しばし「芸術の都」となっていました。

図書館だより



図書館開館時間
平 日 10:00～18:00
土・日 9:00～17:00
月・祝 休 み

★ 年末はミステリーで ★

ドラマでも本でも、ミステリーやサスペンス物が好きという方は多いでしょう。

では、ミステリーとサスペンスの違いをご存知でしょうか？

先日見ていたテレビのクイズ番組の問題がこれでした。正解は、犯人が最後までわからず、探偵が最後に言い当てるのがミステリー。犯人は最初からわかっており、その犯罪をハラハラしながら追うものがサスペンス。ああ、なるほど、ですか？

先月からの新着図書の中にもミステリーがいろいろ入っています。その中からおすすめを・・・。

舞台は12世紀のイングランド。シュルーズベリ修道院の一行道士が探偵となって活躍する修道士カドフェルシリーズ。

お知らせ

年末年始の図書館の閉館日は次のとおりです。
12月28日（水）～1月4日（水）
よろしくお願いします。

（現在1～17巻）。エリス・ピーターズ原作のこのシリーズは世界中で多くのファンをもち、テレビドラマにもなりましたね。もうひとつは、北村薫著の“覆面作家シリーズ”（1～3）。きわめつきのお嬢さまでもあり、同時に頭脳明晰な探偵にもなる、とても魅力的な主人公が大活躍します。

忙しい年末ですが、大掃除を終えた後、こたつにでも入りながらゆっくりミステリーを読む・・・そんなひとときもいいですね。どうぞよいお年をお迎え下さい。

新刊案内

《一般書》

I Love You
病気になる生き方
AMEBIC
小児科のお医者さんからママたちへ
草葉根
「宇宙医学」入門
カウントダウン・ヒロシマ
半島を出よ 上・下
大統領の英語
ムーミンのふたつの顔
アッコちゃんの時代
アースダイバー
日本国憲法に出会う授業
北欧の道具と暮らしたい
その日のまえに
楽しく食育
東京奇譚集
ふしぎなお金
一葉のきもの
土鍋で自慢おかず
谷川俊太郎詩選集 2, 3
上陸
頭がいい人・悪い人のパソコンの使い方
靖国問題

井坂幸太郎 他
新谷弘美
金原ひとみ
中野康伸 他
中東久雄

スティーヴン・ウォーカー
村上龍
松尾式之
富原真弓
林真理子
中沢新一
久保田貢

重松清
砂田登志子
村上春樹
赤瀬川原平
近藤富枝
夏梅美智子

田中小実昌
高橋哲哉

古道具中野商店
新編クロノスジョウターの伝説
覇王の夢
千日紅の恋人
憑神
沼地のある森を抜けて

川上弘美
梶尾真治
津本陽
帯木蓬生
浅田次郎
梨木香歩
他

《児童書》

こどものためのドラッグ大全
オオカミ族の少年
なつのいなかのおとのほん
戦争が終わっても
レイチェル
おばけリンゴ
ババールの美術館
超コワイ！？ホラーパズル
アッホ夫婦
おがわのおとをきいていました
ラムチャップチャ ともだちどんぶらこっこ
14歳からの仕事道
クワガタ&カブト甲虫ランキング大百科
チョコレート工場の秘密
星になった少年
レベル4
こぎつねキッコ

深見埴
ミシェル・ペイヴァー
マーガレット・ワイズ・ブラウン
高橋邦典
エイミー・エアリク
ヤーノシュ
ロラン・ド・ブリュノフ
土門トキオ
ロアルド・ダール
スズキコージ
ますだゆうこ
玄田有史
ロアルド・ダール
島田和子
アンドレアス・シュリューター
松野正子
他

110

おこさず あわず 事故ゼロ

おおいた年末・年始の事故ゼロ運動

12月15日（木）～1月4日（水）

交通安全

平成17年町内地区別事故発生状況（累計、属地）

地区別	人身事故			物損事故	件数計
	死者	負傷	件数		
東飯田	1	10	7	30	37
野上	0	11	9	47	56
飯田	2	38	22	150	172
南山田	1	27	15	65	80
計	4	86	53	292	345

（平成17年11月末現在）

● おおいた男女共同参画プラン（素案）に対する県民意見募集

県庁のホームページや玖珠九重地方振興局で公開中。みなさんの意見を募集しています。募集方法は郵送、ファックス、電子メールです。募集期間は12月27日（火）まで。

お問い合わせ

大分県県民生活・男女共同参画課 西本
☎ 097-536-1111
内線 3047

● 知識のユニバース“放送大学”

テレビ・ラジオを利用して授業を行い、マイペースで学習ができる正規の大学です。入学試験はありません。約300科目の幅広い分野の科目をそろえています。

出願期間 平成18年2月28日（水）まで

視聴方法、特長、学費等の詳しいことは次のところまでお問い合わせください。「募集要項」（無料配布中）等をご送付します。

放送大学大分学習センター

☎ 097-549-6612 FAX 097-549-6621

〒870-0868 大分市野田380

（別府大学大分キャンパス内）

放送大学ホームページ

<http://www.u-air.ac.jp>



くらの情報



県立日田高等技術専門校 入学生募集

科 目 情報ビジネス科・建築科・造園科
(定員は各20名)

期 間 平成18年4月から翌年3月まで
授業料は一切無料(教科書等の実費は必要)

募集期間 平成18年1月4日(水)～1月31日(火)

入校試験 平成18年2月13日(月)

問い合わせ先(願書提出先)
大分県立日田高等技術専門校 ☎ 0973-22-0789
日田公共職業安定所 (☎ 0973-22-8609)

年末調整や確定申告の際に 「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」 の添付等が義務付けられました。

平成17年分の所得申告から、国民年金保険料を社会保険料控除として申告する際に、1年間に納めた国民年金保険料を証明する書類「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」を年末調整や確定申告の際に添付することが義務付けられました。

申告を行うまで大切に保管してください。

*従来送付されていた「国民年金保険料の納付額のお知らせ」の代わりとなるものです。

～11月または翌年2月に送付されます～

- ①11月上旬に送付される方
1月1日から9月30日までの間に、国民年金保険料を納めた方です。
- ②2月上旬に送付される方
10月1日から12月31日までの間に、その年に初めて国民年金保険料を納めた方です。

お問い合わせ、控除証明書の再発行等は専門ダイヤルへ
0570-009911(平日9時～17時)

*一般電話、公衆電話から、市内通話料金でご利用いただけます。
*PHS及びIP電話など一部ご利用いただけない回線があります。

平成18年度県政モニター募集

大分県では、電子メールや郵便を利用して、県政に対するご意見やご提案を提出していただく「県政モニター」を募集しています。みなさんのご応募をお待ちしています。

募集人員 メールモニター 160人
文書モニター 40人

活動期間は平成18年4月から翌年3月まで

応募資格 県内在住の20歳以上の方

応募方法

メールモニターを希望される方は大分県庁ホームページ上の「県政モニター募集」にある応募入力フォームでお申し込みください。

文書モニターは官製はがきでお申し込みいただけます。詳細はお問い合わせください。

募集締切 平成18年2月13日(月) 当日必着

問い合わせ 大分県広報広聴課広聴班
(☎ 097-536-1111 内線2097)

交通遺児等への 育成資金の貸し付けのご案内

自動車事故が原因で死亡した方または重度の後遺障害が残った方の子弟で、0歳から中学生の子どもを対象に無利子で貸し付ける制度です。

貸付金額 一時金：155,000円
毎 月：20,000円
入学支度金(小・中学生)：44,000円

貸付期間

貸し付けが決定した月から中学校卒業の月まで
*利子は無利子で、返還は20年以内(月賦・半年賦・年賦)の均等払い

介護料支給のご案内

自動車事故により、脳・脊椎または胸腹部臓器を損傷し、常時または随時介護を必要とする状態にある人には、介護料が支給されます。

支給対象者

自賠責保険後遺障害等級1級1号・2号または2級1号、2級2号の認定を受けている方またはそれに相当する方

支給額 常時介護の方：月額58,570円～136,880円
随時介護の方：月額29,290円～54,000円

支給期間 申請のあった日から介護料の支給条件に該当しなくなった日まで

問合せ先 自動車事故対策機構大分支部
☎ 097-534-9341

県立盲学校高等部生徒募集

教育内容 普通教育、または職業(あんま・はり・きゅう)教育

出願資格 両眼の視力がおおむね0.3未満の人。または視機能障害が高度なうち拡大鏡等によっても通常の文字・図形等の視覚による認識が不可能または著しく困難な程度の人。

出願期間 (前期) 2月3日(金)～10日(金)
(後期) 3月8日(水)～10日(金)

募集学科・試験月日等のお問い合わせ、願書の請求などは、県立盲学校教務係(☎ 097-532-2638またはFAX 097-532-2636)まで。

流通加工業者モニター及び 消費情報提供協力者の募集

農林水産省では、農林水産行政を円滑に推進するため、生産者や流通加工業者、消費者などの情報交流活動を行っています。その一環として、「流通加工業者モニター」と「消費情報提供協力者」を募集します。

詳細については、大分統計・情報センターホームページ「アグリルームoita」(<http://www.oita.info.maff.go.jp/>)をご覧ください。日田統計・情報センター(☎ 0973-23-5607)へお問い合わせください。

平成18年1月1日現在に償却資産 (固定資産税の課税対象)をお持ちの方は、 申告が必要です。

会社や個人で工場や商店などを経営しておられる方が、その事業のために用いることができる機械・器具・備品等の有形固定資産を償却資産といいます。

その内容を例示しますと、①構造物（煙突、鉄塔、舗装工事など）、②機械及び装置（旋盤、ポンプなど）、③船舶、④航空機、⑤車両及び運搬具、⑥工具、器具、備品、（測定工具、机、いす、ロッカーなど）などの事業用資産です。

ただし、取得価格20万円未満または耐用年数1年未満の償却資産は原則として課税対象とはなりません。

このような事業資産をお持ちの方は、平成18年1月1日現在の資産所有状況（資産の種類、取得価格、取得時期、耐用年数など）を平成18年1月31日までに役場税務課まで申告していただくことになっています。

〔申告書の備え付け場所及び問い合わせ先〕
九重町役場税務課資産税係 ☎ 76-3803（直通）

家屋(固定資産課税対象物件)の 取り壊しをされた方へ

固定資産税（家屋）については、毎年1月1日（賦課期日）現在において存在する家屋に対して課税が行われるしくみになっています。

したがって、平成17年中に家屋の取り壊しをされた場合（平成18年1月1日までに減失登記を行った場合を除く）は、平成18年1月31日までに九重町役場税務課資産税係まで届出をして下さい。

取り壊しの届出がなされないとそのまま引き続き課税対象物件として課税される場合があります。

〔届出の様式及び問い合わせ先〕
九重町役場税務課資産税係 ☎ 76-3803（直通）

精神科救急についての電話相談

県では、夜間や休日といった診療時間外に、精神症状の悪化等の緊急的な精神科医療に関する電話相談を受ける窓口を開設しています。

精神保健福祉士、看護師等が電話相談を受けますので、ご利用ください。

大分県精神科救急電話相談センター
☎ 097-541-1179

受付時間 平日（土曜日含む） 17:00～21:00
日曜・祝日 9:00～21:00

今月の 年金相談

日時 12月28日(水)10:00～15:00
場所 九重町役場1階・102会議室

消費税及び 地方消費税の振替納税のおすすめ

個人事業者の方の消費税及び地方消費税の便利な納税方法として、「振替納税」の制度があることをご存知でしょうか。

これは銀行や農協、郵便局などの預貯金口座から振替により自動的に納税できる制度です。

まだ利用されていない方は、簡単な手続きで済みますから、早い機会にぜひご利用ください。

日田税務署 ☎ 0973-23-2136

消防設備点検資格者講習会

講習期日 ①第1種消防設備点検資格者
平成18年1月17日(火)～19日(木)3日間

②第2種消防設備点検資格者
平成18年1月24日(火)～26日(木)3日間

講習会場 新日鐵明野研修センター「攻玉寮」(大分市)

受講申し込み(受付)期間

平成17年12月12日(月)～18年1月10日(火)

申請書提出・お問い合わせ先

(財)大分県消防設備安全協会 ☎ 097-537-3125

*講習の手引き(申請書)は県内の消防(局)本部にあります。

製造事業所のみなさまへ 統計調査にご協力ください

平成17年工業統計調査を12月31日現在で行います。

調査の実施にあたっては本年12月から来年1月にかけて調査員がお伺いします。

なお、調査票に記入していただいた内容については、統計法に基づき秘密が厳守されますので、正確なご記入をお願いします。

経済産業省・大分県・九重町

大分県臨時職員採用候補者名簿登録試験

大分県では、県の本庁及び県内地方機関で事務補助を行う臨時職員の採用候補者名簿登録試験を実施します。

募集期間 平成17年12月19日(月)～
平成18年1月13日(金)

試験日 平成18年2月12日(日)を予定

応募書式等は県のホームページ

(<http://www.pref.oita.jp/11200/rinji>)に掲載するほか、県庁人事課や各地方振興局でも配布します。

問い合わせ 玖珠九重地方振興局総務企画商工課
(☎ 72-0260)

今月の納税 納期限12月28日

【国民健康保険税】
【固定資産税】(第4期)

幸せになろうね



No.120

んの一年間はいかがでしたか？

子どものころは、長く感じた一年間、大人になり歳を重ねるごとに（笑）あつという間に過ぎて——そう感じるのは私だけ？子どもたちに聞いてみました。「はやいよー」との返事。「そうか、今の子どもは、忙しいからね。充実した忙しさは、いいよね」

泣いたり笑ったり怒ったりいろいろなことがあるけれど、それが生きている証拠。今年一年をふりかえり、明年へのステップにと思えます。

さて、12月4日から10日までは人権週間でした。

「育てよう一人一人の人権意識——思いやりの心・かけがえのない命を大切に」週間中は全国各地で、街頭啓発や講演会

ふりかえり

はいいもので、12月師走。あわただしく今年も終わろうとしていきます。一年間をふりかえり皆さんなど、さまざまな啓発活動が行われました。九重町でも12月7日（九重人権デー）に、すべての町民が、家庭、職場、地域の中で、共にささえ合って生きていける社会を実現していくため、「一人ひとりを幸せにするあなたの思いやりと行動を」のスローガンのもと「第6回いのち・愛・人権フェスティバル」を開催しました。

「ミニコンサート」「意見発表」「寸劇」「朗読と弾き語り」などの発表を通じて、自分らしさ、あなたらしさ、を認め合い、自分の課題として人権について考えるよい時間を過ごしました。元気をたくさんもらうことができました。人と人のつながりを大切に、九重町の「人権の樹」を皆さんで育てていきましょう。では、よいお年をお迎えください。

隣保館人権指導員

安藤 千恵美



＝平成17年12月・平成18年1月休日当番＝

病 院	月	日	医療機関名	住 所	電 話
	12月	23日	小 中 病 院	塚 脇	72-2167
		25日	高 田 病 院	春日町	72-2135
		29日	武 田 医 院	森	72-0170
			矢 原 医 院	野 上	77-6121
		30日	北山田クリニック	北 山 田	73-2030
			長内科小児科胃腸科医院	春日町	72-2143
		31日	玖 珠 記 念 病 院	塚 脇	72-1127
	1月	1日	麻生消化器科内科医院	山 田	72-7100
			友成(町田)医院	町 田	78-8811
		2日	井 上 医 院	恵 良	76-2711
			三池循環器科内科医院	塚 脇	72-6101
		3日	友成(産婦人科)医院	塚 脇	72-0330
			飯田高原診療所	飯 田	79-2138
		8日	小 中 病 院	塚 脇	72-2167
		9日	高 田 病 院	春日町	72-2135
		15日	武 田 医 院	森	72-0170
			矢 原 医 院	野 上	77-6121
		22日	北山田クリニック	北 山 田	73-2030
			長内科小児科胃腸科医院	春日町	72-2143

歯 科 医	月	日	医療機関名	住 所	電 話
	12月	23日	桑野 歯 科 医 院	日田市	0973-22-2556
		25日	倉成 歯 科 医 院	玖珠町	72-0450
		29日	酒井 歯 科 医 院	日田市	0973-23-6480
		30日	村山 歯 科 医 院	日田市	0973-22-3303
		31日	(日田)井上歯科医院	日田市	0973-22-3305
	1月	1日	伊藤 歯 科 医 院	日田市	0973-24-5700
		2日	はたの 歯 科 医 院	日田市	0973-22-7736
		3日	樋口 歯 科 クリニック	日田市	0973-22-8881
		8日	是永 歯 科 医 院	玖珠町	72-1020
		9日	小野 歯 科 医 院	天瀬町	0973-57-2102
		15日	武内 歯 科 医 院	日田市	0973-22-3034
		22日	たしろ 歯 科 医 院	玖珠町	72-3838

獣 医	月	日	獣医師名	電 話
	12月	23日・29日	佐 藤 獣 医	77-6448
	1月	1日・7日・14日・22日		
	12月	18日・25日・31日	山 本 獣 医	78-9101
	1月	3日・9日・21日・29日		
	12月	24日・30日	甲 斐 獣 医	76-3324
	1月	2日・8日・15日・28日		

★都合で変更する場合があります。

玖珠消防署：● 救急は119番 ☎72-2141
● 火災の確認は ☎72-5100

備考 大分県中西部農業共済組合 ☎72 3 4 0 9
休日当番の電話番号(携帯)は 090-5721-8191

歳時記

季題

1月号

「去年今年」

「初」のつく言葉、「山眠る」

(12月20日締切)

*締切がいつもより早くなります。
(ご注意ください。)

2月号

「雪」「春」

(1月25日締切)

今月の季題

「山茶花」「冬」

「師走」

山茶花の結婚記念の植樹かな
 売る牛と別れを惜しむ冬の朝
 のんびりとホームで暮す師走かな
 生け垣の山茶花赤き露天風呂
 結婚式植えし山茶花銀婚式
 山茶花の花満開の垣根かな
 山茶花のトンネルくぐりお出かけす
 山茶花や白一色の道路沿い
 退職の記念の山茶花咲きほこり
 背を伸ばし冬將軍に立ち向ふ
 冬装備めだまぐりぐりウォーキング
 冬木立木洩日さして宝宮
 立冬の青空高く飛行雲
 孫の婚師走の心温まる
 朱に映えし宇佐三殿の冬日かな

穴井久美子
 井上 マキ
 佐藤 節代
 伊東 匡子
 森高マサヨ
 岩尾 奈加
 佐藤 元八
 赤峰 幸子
 佐藤 修正
 清竹 勇藏
 藤澤 節子
 甲斐 和子
 小野ミツノ
 玉井多喜子
 選者 吟

添削がありますのでご了承ください。 広報

「山茶花の結婚記念の植樹かな」山茶花に寄せる夫婦の愛情。「山茶花や」にする「や、かな」等の「切れ字」がダブリ不味い。
 「売る牛と別れを惜しむ冬の朝」畜産事業でも牛との別れは辛い。
 「のんびりとホームで暮す師走かな」浮世の師走とは別天地。選者 麻生 良昭

このコーナーは町民どなたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、電話番号をお書きのうえ企画調整課広報係までご応募を。なお、応募作品は返却しません。

このえ 時間旅行

ふるさと再発見 137

地名を歩く 吉野神社と猪牟田(その1)

九重町文化財調査員 甲斐素純

興」が必要であり、大概は大坂(坂)や京都の専門家(業者)に製作を依頼した。購入には、氏子を代表する人々が直接現地に行き下見をしたであろうし、その運搬にも立ち会ったと思われる。

聞くとところによると、町田栗原の観音堂内には、古い神輿が安置されているという。それは、かつて氏神小倉神社で使われていた神輿とのこと。それ以上は判明しない。普通神輿は、その下部に製作者や製作年月日、あるいは購入時のいきさつ、責任者や関係者の人名が板や木材に墨書されている。お堂修復など、何かの折にこの神輿の底に墨書されている銘文を調べてみたいものである。

神輿の国指定も他所にはあり、制作年代が古く保存も良好であれば、国指定や県指定の可能性もあり、町指定の申請作業も必要であろう。

さてここ後野上猪牟田の「吉野神社」には、神輿ではなく見事な「宮殿」がある。同社は猪牟田集落より50メートルくらいの高台にあり、山を背に南面して立つ。筆者ら七人が、かつて大分合同新聞紙上に連載した『玖珠川歴史散歩』

(その後、連載記事を元に葦書房から一冊にまとめ、一般書店でも販売した)所収の「野上川流域」(梅木吉三氏執筆)から、吉野宮の所を紹介すると、「佐藤忠信(源義経の家来)が文治二(一一八六)年、吉野山で義経を逃すために戦っていたら、はぐれてしまった。仕方なく九州に下向し、この地(飯田郷)を支配していた清原通次(野上兼次の父)の娘を妻にして住んだ。この人が吉野山で義経の無事を祈願した吉野宮を、正治元(一一九九)年に祀った。これは同地佐藤家文書の記述で、元は同家の屋敷神であったらしい。社は古く、元禄年間に作られたものではないかと言われている。昔は戦の神として崇敬(すうけい)され、戦時中は特に参拝する人が多かったという。



吉野神社拝殿の天井絵

弔慰

お悔やみ申し上げます

おなまえ	年齢	行政区
金山 邦明	54	奥山区
阿部 刃男	85	金山区
武石 二一	92	北山区
木下 津矢子	80	中央三区
松原 一人	94	富来口
時松 なつこ	92	釜の口
帆足 ミヨシ	85	寺田郷
佐藤 一万十	79	拓治二
御筆 サカエ	97	引治二
竹枝 正男	72	小垣内
左藤 利子	83	後河内
佐藤 源八	84	茅原小野
安永 多美子	71	陣の内下

人の動き

11月1日～11月30日届出分

(敬称略)

人口と世帯

人口	11,595 人 (-20)
男	5,523 人 (-7)
女	6,072 人 (-13)
世帯	3,924 (±0)
() は前月との増減	

おめでとうございます

出生

おなまえ	性別	保護者	行政区
太田 梨奈	女	龍男	下旦四
宿利 星唯	男	雅彰	川上一
乙津 東洋	男	忍	中央三
甲斐 涼風	女	涼治	中村下二



男たちの大和(YAMATO)

前売り券 大人1300円(当日1800円)

高・大学生当日のみ1500円(前売りなし)

中・小学生当日のみ1000円(前売りなし)

*全国共通前売り券での入場は出来ません。

文化センター上映用の前売り券をご購入ください。

見た人の感想から

●始めは戦争映画に興味なかったけど、この映画を観ることができて心から良かったと思っています。●とても感動し、映画の間中涙が止まりませんでした。●戦争で亡くなった人の上で成り立っている平和を絶対に壊してはいけないと思います。●改めて戦争の愚かさや醜さを痛感させられました。●涙が止まらなかった。何度も涙で前が見られなくなった。

(解説と感想は東映広報資料より)

桜の咲き誇るあの春の日、ただ愛する人を、家族を、友を、祖国を守りたい、その一心で「水上特攻」に向かい、若い命を散らしていった男たち。そして、そんな男たちをさまざまな思いを胸に送り出していった女たち。そのとき何を想い、何を願い、何を悔やんだのか。死んでいく者の壮絶な生き様と深い想いが、遺された者たちの永遠の無念が、深く心に突き刺さる映画。

全国ロードショーに合わせた上映です。

出演：反町隆史・中村獅童・仲代達矢・鈴木京香 ほか

監督・脚本：佐藤純彌 原作：辺見じゅん

問い合わせ 九重文化センター ☎ 76-3888

12月25日(日)

①1000 ②14:00 ③18:00

3回上映

九重文化センター

花火・ザ・宝泉寺



1月14日(土)

宝泉寺温泉特設会場

よる 7:00～

バザー、どんど焼き、郷土芸能
打ち上げ花火(約2000発)

1月の
お知らせ

町長と語る
ふれあいタイム

1月28日(第4土曜日)

午前10時～午後4時(日中開催)

場所は町長室です。
お気軽においでください。

ももじ

- 九重の自然はウツクシイ 2
- ラムサル条約登録記念式典集い 4
- ビジターセンター/トキこども大使 5
- 自律のまちづくりに向けた町づくり懇談会 6
- 旭日双光章を受章した佐藤巖さん 8
- 佐藤秋男さん/フキ代さん(畜産共進会) 10
- 岡嶋建一郎さん(ホルスタイン共進会) 11

- おいしいもの探検 12・13
佐藤和則さんのサツマイモ
日野道夫さんの漬物
- ニュース・スクラップブック 14
- 保健食育ってなあに? 16
- ウォームビズ/119 17
- 川東公民館祭り通学合宿ほか 18
- 図書館だより 19
- 暮らしの情報 20・21
- 人権/休日当番 22
- 歳時記/時間旅行 23

編集後記

今月の表紙はいかがですか? 5Pで少し紹介した辻さんに、「年末年始の楽しい雰囲気や伝わるようなものを」とお願いしたら、とても素敵なイラストを描いてくれました。あらためて感謝です。●表紙はイメージを決める大事な要素。この前、おもしろいコラムを読みました。アメリカのある研究によると、人は最初に見初めた相手に魅かれる確率が高いということです。出会いは最初の3分で決まるといわれる。それも、遺伝子的に自分と近いけど、少し違った人を無意識のうちに選ぶそうです。そうやって多様性を確保しながら、自分の生き残りもしていこうという本能が人にはあると書いていました。この法則をいろいろなこと当てはめてみるとけっこうおもしろいのは、来年1月1日午前8時59分60秒、「うるう秒」なるものが挿入されるそうです。たった1秒ですが、ささやかなお年玉という趣。最近、今日が何曜日なのかわからなくなってきました。テレビをほとんど見ないせいか、曜日の感覚が消えてしまいました。あつという間の1年が終わろうとしています。広報は年度の始めに、年間○○ページつくるという計算で予算を組んでいます。予定以上にページを使ってしまうと、年度末の3月までは、やりくり月間になりそう。でも心配なく。節約メニューだけおいしいものはたくさんあります。以前、給食関係の人から聞いた話なのですが、予算がピンチになったとき登場するのが、「ちくわの磯辺あげ」。3月までは「磯辺あげ広報」になりそうですが、早い・安い・ウマイをモットーにいいものをお届けしようと思います。これから正月号準備。年末年始が入るため1分1秒を争う(少し大げさですが、あなたがちはずれでない)スケジュールとの戦いです。では、少し早くですが、良いお年を。

Koichi T

町の面積 271.41km² / 町の木 くぬぎ 花 ミヤマキリシマ 鳥 カッコウ

資源保護のため広報ここのえは古紙配合率100%の再生紙を使用しています。R100